

R2製図課題の所見

1. 令和2年度の設計製図課題「高齡者介護施設」

【要求図書】

1階平面図・配置図(縮尺1/200)、各階平面図(縮尺各1/200)、断面図(縮尺1/200)、面積表、計画の要点等

※各階平面図については、試験問題中に示す設計条件等において指定します。

(注1) 居宅サービスを行う施設及び居住施設で構成する建築物の計画とする。

(注2) 「高齡者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律」に規定する特別特定建築物の計画とする。

(注3) 建築基準法に適合した建築物の計画(建蔽率、容積率、高さの制限、延焼のおそれのある部分、防火区画、避難施設等)とする。

【建築物の計画に当たっての留意事項】

敷地の周辺環境に配慮して計画する。

バリアフリー、省エネルギー、セキュリティ等に配慮する。

各要求室を適切にゾーニングし、明快な動線計画とする。

建築物全体が、構造耐力上、安全であるとともに、経済性に配慮して計画する。

構造種別に応じた架構形式及びスパン割りを適切に計画するとともに、適切な断面寸法の部材を計画する。

空調設備、給排水衛生設備、電気設備、昇降機設備等を適切に計画する。

【注意事項】

「試験問題」及び上記の「建築物の計画に当たっての留意事項」を十分に理解したうえで、「設計製図の試験」に臨むようにして下さい。

なお、建築基準法令や要求図書、主要な要求室等の計画等の設計と条件に対して解答内容が不十分な場合には、「設計条件・要求図面等に対する重大な不適合」等と判断されます。

2. 所見

本課題の要求図書から読み取れることは、(注1)に記載されている「居宅サービスを行う施設」と「居住施設」の建物であるという点である。この2つの施設から推定すると、1階と2階は「居宅サービス施設」となり、3階～5階(最大で7階もあり)は「住居施設」になる可能性が高い。そこから、更に部門と要求室を推定すると、下表の通りになるものと予測する。

建築物の計画の当たっての留意事項は、例年とほぼ同じ内容である。

注意事項は、法規や設計と条件への不十分な解答はランクIVになるという厳しい指摘である。この点は、トップ掲載「1級製図のR2合格法(R1から審査が厳しく従来学習なら不合格)」で指摘した通りであり、一発不合格への更なる対応が要求される(この点は、今後の掲載資料で詳細に解説する)。

表1 要求室等の部門と室名の推定

居宅サービス施設	ディサービス部門	<ul style="list-style-type: none"> ・機能訓練室(食堂) ・厨房(パントリー) ・浴室 ・事務室 等
	ショートステイ部門	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊室 ・機能訓練室(食堂) ・厨房(パントリー) ・汚物室 等
居住施設	住宅部門	<ul style="list-style-type: none"> ・住戸 ・談話室 ・食堂 ・浴室 等
共用施設	共用部門	<ul style="list-style-type: none"> ・エントランス ・事務室 ・便所 ・設備スペース 等

3. 本試験課題と予測課題との比較

R2高齢者介護施設に関するS社・N社の課題について、建設用地、指定床面積、東西南北条件、要求室、屋外条件に分けて比較した一覧を下記に示す。他社の資料および過去の分析等から本試験では、どのような内容が出題されるかを適宜分析掲載する。

本試験課題と予測課題との比較 (参考としてN社市販書籍・N社資格学校・S社資格学校の要求室等あり)

表1 各予測課題の比較一覧表

各社	課題名	建設用地			指定床面積			東西南北条件				要求室				屋上・屋外	敷地面積	建築費	備考
		規模	種	種	以上	以下	東	西	南	北	サービス部門	ショートステイ部門	住宅部門	共用部門	敷地面積				
本試験	R2課題																		
研究会	予測課題																		
	予測課題																		
	予測課題																		
N社書籍																			
N社資格学校	専攻制																3	15	SF、建築率70%
S社資格学校	基本																2	1	SF、建築率60%

本内容は会員講座内で掲載中

注意: 本内容は、会員から本業作成範囲で協力頂き作成したものであり、参考程度に見て下さい(2020.8.3)。部門が異なるところにある場合があります。名称が微妙に異なる場合もあり、近い名前に統一しています。

2. 研究会予測課題のアップ予定日

研究会は、毎年3予測課題に絞り込み、その3課題で本試験の80%以上の中を目標にしている(H28~R1は80%以上の中申した)。

各社資格学校は、毎週、様々なパターンの予測課題を作図させるという学習手法を取っている(表参照)。1級建築士の製図試験の合格者のうち、約9割が資格学校への通学者である。また、その合格率は約50%であり、通学しても2人に1人は落ちてしまう現状があることを理解したほうが良い。S社は、占有率が高い旨の広告をしているが、それは、単純に受講生が多いので占有率が高く、合格率はS社もN社もほぼ同じである。資格学校は、全員に平等に指導せざるを得ない一面があるので、隣の人に勝つには、隣の人より何らかの努力をしないと合格できない(事実上、製図試験の合格とは、資格学校等の中での1/2の競争となる)。

当研究会は、S社とN社の課題全てを分析し、過去問等の検討を含め3課題が80%以上の中することを目指しているため、独学者も通学者も、どちらの方にも利用頂きたい。R2研究会の予測課題の掲載予定日は、以下の通りである。

- ・2020.8.17: 1回目の予測課題
- ・2020.8.31: 2回目の予測課題
- ・2020.9.14: 3回目の予測課題